



粘土の為のコンポジション (試作) 2014, 陶 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates 撮影: 柳場大

## 富井 大裕 Motohiro Tomii 粘土の為のコンポジション

会期: 2015年1月13日(火) - 2月10日(火)

会場: Yumiko Chiba Associates viewing room Shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日

オープニングレセプション: 1月24日(土)

※オープニングレセプションは展覧会初日ではありません。お気を付け下さい。オープニングレセプション当日は作家が在廊しております。

2015年1月13日(火)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、富井大裕の個展「粘土の為のコンポジション」を開催いたします。

富井は、現代を生きる作家の必然としてレディメイド(=既成品)を作品の素材として扱います。素材そのものが備えている機能、条件、存在定義を制作という行為によって新しいものへと変化させ、全く異なる存在として我々の目前に提示します。それは、素材から全ての意味をはぎ取ると同時に、素材の物理的な要素のみで作品を完成させることによって、物語性にもイメージ性にも形にも頼ることのない、真の意味で自立した作品を作ろうとする行為でもあるのです。

長い歴史の中で「彫刻」と言われてきた従来のイメージから離れた方法で、素材にこだわることなく彫刻のあらたな可能性を探求する姿勢は、twitterにて毎日更新される「今日の彫刻」シリーズや印刷物を用いた作品にも表れていますが、昨年の展覧会でこれらtwitter上の画像を展示した時に、富井は自身の着目点をこれまでと違ったもので示そうと考えました。そして、そのための補足的な作品に使うという目的を果たす素材として、粘土を選択することになります。

富井は、大学時代、彫刻学科に在籍し塑像を専攻しました。毎日粘土に向かい続けることで、粘土という素材への愛着を持つようになるのですが、次第に「彫刻」という行為に疑問を持ちある種の挫折を感じるようになります。以来、作品を制作するうえで粘土に距離を置いてきたと富井は言います。それから十数年経ち、上述の展示において、富井は必然的に、また運命的に、その「粘土」という素材に再度向きあうこととなります。「粘土の為のコンポジション」は、こういった自己の中での「彫刻」というコンセプトを、さまざまな試みと実験を続ける中で生まれた作品群です。

「粘土の為の粘土」の有り様を、作品をつくるという手段を用いて追求する。富井はつくり続けることにより、またそれゆえに、作る理由を問い続けています。

今回の展示では、こうした粘土の作品と共に、エディション・ワークスとの初の共同制作となる版画作品を展示致します。ぜひ、ご高覧ください。



## ■Artist Statement

粘土は、私が初めて制作した彫刻の素材であり、学生時代に最も長く触れた物質である。その過去により、私と粘土は少なからず痴情に溺れた関係にある。粘土は読んで字の如く粘りのある土であり、それ以上でもそれ以下でもない。私が粘土と新しい関係を築く為には、この粘土の性質のみを見つめる必要があった。柔らかい自立している構造体を制作すること。技量の優劣によって作品を成立させないこと。この二つを両立させることが見つめる為の条件である。その回答として、人体を模した形態と指示書による制作手順の記録を採用した。人体は、そのパーツ間の量のバランスにより、不安定である筈の二点で自立する状態を維持している。そのパーツの内、両腕の接合位置を意図的にずらすことで人体を不安定な状態に変える。そこで起こることは、形態の歪みによる粘土の印象の変容である。接合位置は指示書によって規定される。位置が同じことで際立つのは制作者の素材に対する態度であり、粘土はそれを赤裸裸に映し出す。同じであることによって生まれ続ける差異。これが粘土の魅力であり、「粘土の為のコンポジション」の目的はこの魅力の探求と生産である。

富井大裕 2015年1月

## ■オープニングレセプション

日時:2015年1月24日(土)18:00-20:00

会場:Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

## ■関連情報

個展の開催に合わせ、最新の展示風景画像などもおさめた、住友文彦氏(アーツ前橋 館長)執筆による富井大裕の新刊が刊行予定です。

### 『the plurality and lightness』

執筆: 住友文彦

英語版のみ 500部限定

定価2,000円+税

A5判上製、48頁

ブックデザイン: 藤井圭

※ ご購入は、全国の書店、もしくはYCAオンラインストアにて

<http://ycassociates.thebase.in/>



## ■プロフィール

## 富井大裕(とみい・もとひろ)

美術家

1973 年新潟県生まれ

1999 年 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。

第 4 回アート公募 2000 審査員大賞受賞。

## [主な個展]

- 2014 「SHOW-CASE project No.1 : 3 個の消しゴム」慶應義塾大学アート・センター／東京  
「デイリーコンポジション」アートセンター・オンゴーイング／東京  
「繊維街 日本橋」NICA／東京  
「SHOW-CASE project No.0 : Blind Composition」慶應義塾大学アート・センター／東京
- 2013 「直線と周囲」switch point (東京)  
「combine」-still- Yumiko Chiba Associates (東京)
- 2011 「色と形を並べる」ラディウム-レントゲンヴェルケ(東京)
- 2010 「つくるために必要なこと」金沢美術工芸大学アートギャラリー(石川)
- 2010 「catch as catch can」現代 HEIGHTS Gallery DEN (東京)
- 2010 「STACK」NADiff Gallery (東京)

## [主なグループ展]

- 2014 「複々線」現代 HEIGHTS Gallery DEN／東京  
「柳瀬荘アート・教育プロジェクト“アウェーゲーム——茶碗に勝てるか——” 柳瀬荘／埼玉  
「愉快」現代 HEIGHTS Gallery DEN  
「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画コンタクト」東京都現代美術館／東京  
「Drawing03 ーpreference」渋谷画廊／東京  
「道草」現代 HEIGHTS／東京  
「AGAIN-ST 第 4 回展「置物は彫刻か?」」東北芸術工科大学  
「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画クロニクル 1995-」東京都現代美術館／東京  
「竹尾ペーパーショウ 2014 『SUBTLE』」TOLOT／東京  
「白川昌生 ダダ、ダダ、ダ 地域に生きる想像☆の力」アーツ前橋／群馬  
「ニイガタ・クリエーション 美術館は生きている」新潟市美術館 (新潟)
- 2013-14 「MOT コレクション第 2 部 つくる、つかう、つかまえる —いくつかの彫刻から—」東京都現代美術館 (東京)
- 2013 「引込線 2013」旧所沢市立第 2 学校給食センター (埼玉)  
「Omnilogue : Your Voice is Mine」シンガポール国立大学美術館 (シンガポール)
- 2012 「開港都市にいがた 水と土の芸術祭 2012」新潟市 (新潟)
- 2011 「再考現学/Re-Modernologio phase2: 観察術と記譜法」国際芸術センター青森(青森)  
「呼びとめられたものの光」名古屋ポストン美術館(愛知)  
「横浜トリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか?」横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫(横浜)  
「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」東京都現代美術館(東京)
- 2009 「変成態—リアルな現代の物質性」Vol. 2 富井大裕×中西信洋「揺れ動く物性」ギャラリーαM(東京)

## [パブリック・コレクション]

東京都現代美術館

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。  
ユミコチバアソシエイツ 担当: 宮中由紀  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp  
[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日